**Z連携の現状**

利用状況

* 参加機関数　　　41事業所（管内医療・介護保険事業所数100事業所）

診療所は診療日が週4日以上の事業所

* 利用者数　　　 124名
* 登録療養者　 　240名
* 連携回数　 　　205回（Ｈ27年4月～Ｈ28年1月）
* 連携事例
* 入退院時の病院（地域連携室）と居宅介護支援事業所
* 新規利用時や状況に変化があった時の居宅介護支援事業所と介護保険サービス事業所の連携
* テレビ会議機能を専門職の担当者会議への遠隔参加に使用。

利用者の声

* 市の中心地域から離れた事業所：「移動の時間が短縮されとても便利。」
* 病院地域連携室：「忙しい時間に電話や訪問をされてもやり取りが難しいが、Ｚ連携であれば手の空いた時に情報のやり取りが出来るので助かる。退院後の様子もわかるので、包括的な関わりが出来る。」

課　題

* 手書きのfaxでのやり取りは普段から行われていても、インターネットを介した情報連携には抵抗がある。パソコン入力に慣れていない。

Ｚ連携の今後について

　より多くの機関に参加いただき、医療と介護の連携を促進し、療養者を支える包括的なネットワーク構築の実現を図りたいと考えています。そのために「Z連携」の理解をすすめるため説明会等を行っていきます。参加者が一定数に達した時点で、利用料の検討を行います。

Ｚ連携開発経緯

数十キロ離れている事業所間では、リアルタイムな情報共有を図ることが難しいため、医療・介護の実務者からＩＣＴを活用したリアルタイムな情報共有の要望があり、Ｚ連携の開発に取り掛かりました。

Ｚ連携は、平成24年度厚生労働省モデル事業の在宅医療連携拠点事業を新見医師会が受託し、地域の面積が広く人口密度が著しく低い当地域において、距離のある事業所間の連携の問題を解決する為にセキュリティに配慮し開発したクラウド型多職種連携ツールです。名称の由来は、全国105か所の在宅医療連携拠点モデル事業所を結ぶメーリングリストの名称「z\_renkei2012」、「Ｚ」は在宅医療の意味です。

Ｚ連携の機能

　パソコンだけでなくiPadやスマートフォンなどの携帯端末でも入力、閲覧可能で通信事業所を選ばないセキュリティに配慮したシステムとして平成25年3月にバージョン1.0をリリースしました。セキュリティポリシーが整えば、医療情報ネットワーク岡山協議会が運営している地域医療情報ネットワークの「晴れやかネット」の拡張機能である医療と介護の連携を図る「地域ケアキャビネット」とのデータ連携が可能となっています。

（１）新見版情報連携…新見版情報共有書を、権限により入力、閲覧、修正ができ

ます。また、エクセル書式で作成した情報共有書から、Ｚ

連携に一括データ変換できます。

（２）岡山県版情報共有書連携…岡山県介護支援専門員協会が使用している岡山県版情報共有書のフォーマットに入力、閲覧、修正が出来ます。新見版情報共有書のフォーマットでも印刷できます。

（３）活動記録機能…訪問時の記録やコメントを入力出来ます。その療養者に入力された情報は時系列で閲覧できます。

（４）写真連携機能…家の様子や患部の写真などを共有できます。

（５）ファイル共有機能…事業所独自の専用様式など、エクセル、ワード、PDFデータを共有することができます。

（６）スケジュール管理機能…担当者会議や、テレビ会議のスケジュール調整ができます。システム内のカレンダーに予定を登録すると、相手側にメールが送信され、出席の可否等の返信、調整ができます。

（７）テレビ会議機能…遠隔会議、自宅での生活動作や福祉用具の確認を、離れた事業所の専門職に依頼できます。

（８）施設空き情報掲示板…サービスの空き状況や、利用可能時間等の掲示が行えます。

※新見版情報共有書

新見地域では、情報共有の際には、各事業所が独自に作成された情報提供書を使用してきましたが、より迅速な情報の共有、一貫性のあるサービスの提供を目指し、岡山県新見保健所（平成21年より岡山県備北保健所新見支所）が主導し、岡山県のリハビリテーション事業の中で発足した阿新地域リハビリテーション広域支援センター地域部会のワーキンググループとして位置づけた新見地域リハビリテーション連絡協議会（平成19年発足）が紙ベースの地域連携パスを作成しました。平成21年度には連絡協議会が新見地域医療ネットワークとなり、地域連携パスを元に「新見版情報共有書」として確立され、現在、入退院時を中心に年間1,000件以上やり取りされています。